

## 在外日本古美術品保存修復協力事業 (コ04)

**目的** 日本の文化財は欧米を中心に海外でも多く所蔵されている。しかし、日本の文化財の保存修復専門家は海外にほとんどおらず、多くの博物館などで適切な処置に窮している。そこで、本事業では海外で所蔵されている日本文化財のうち絵画作品及び漆工芸品の保存修復に関する助言等の協力を行う。また本格的な修復が必要な作品に関しては日本で修復して返還する。さらに、特殊な条件にある海外作品に関して、その保存修復方法の研究を行い、結果を公開、共有する。

**成果** 1. 作品修復

- ア) インディアナポリス美術館 (アメリカ) 所蔵 鈴木其一筆「八橋図・檜図」6曲1双屏風  
 イ) インディアナポリス美術館 (アメリカ) 所蔵 曾我蕭白筆「太公望図・林和靖図」掛軸2幅  
 ウ) インディアナポリス美術館 (アメリカ) 所蔵 雲谷等顔筆「煙寺晚鐘図・平沙落雁図」掛軸2幅  
 以上3件、修復完了、返還済み  
 エ) ナショナル・ギャラリー・オブ・ビクトリア (オーストラリア) 所蔵 「親鸞聖人絵伝」、掛軸4幅、修復中

## 2. 作品調査

モントリオール美術館 (カナダ)、2019 (令和元) 年6月10日～14日

## 3. 作品修復のための材料技法に関する基礎研究、調査

## 4. 成果公開

国際集会「日本絵画の修復」(International Forum “Restoration of Japanese Painting”) を開催し、プロジェクト紹介及び修復事例を講演、展示した。(「国際研修コ05」及び受託「ポーランド・クラクフにおける文化財保存技術発信・交流事業」との共同事業)  
 講演：2019 (令和元) 年7月29日  
 展示：同年7月29日～8月25日



絵画作品修復

- 発表**・小田桃子ほか：「ナショナル・ギャラリー・オブ・ビクトリア所蔵 佐々木泉玄筆『般若図』(絹本着色 掛軸装) 修復事例報告」文化財保存修復学会第41回大会 19.6.22  
 ・TOMODA Masahiko: “The Cooperative Program for the Conservation of Japanese Art Objects Overseas”, International Forum “Restoration of Japanese Painting”, Manggha Museum of Japanese Art and Technology, Krakow (Poland), 19.7.29
- 刊行物**・『平成27年度在外日本古美術品保存修復協力事業 般若図 No.2015-5 修復報告』東京文化財研究所 20.1

**研究組織** ○加藤雅人、友田正彦、小田桃子、堀まなみ、片渕奈美香 (以上、文化遺産国際協力センター)、江村知子 (文化財情報資料部)、三本松俊徳、小田切真梨、廣原大樹 (以上、研究支援推進部)、大河原典子、杉山恵助 (以上、客員研究員)